



CHIBA
UNIVERSITY

ちばだい

プレス

千葉大学広報誌



特集

耳鼻IPE 10周年を迎えて

～「患者・サービス利用者中心の医療」を目指して
「自律した医療組織人」を養成する～

大学祭2017レポート
千葉大学OBOGインタビュー

42
vol.
2017 DECEMBER

亥鼻IPE 10周年を迎えて

～「患者・サービス利用者中心の医療」を目指して「自律した医療組織人」を養成する～

先進的な学びのかたちとして海外では定着しているIPE (Interprofessional Education) 専門職連携教育)。千葉大学では、医療系3学部^①の相互理解や連携を図り、高度医療やチーム医療に対応できる人材を育成するため、2007年から「亥鼻IPE」に取り組んできました。10周年を迎え、亥鼻IPEがどのような成果を生んでいるのか。冒頭では、IPE^②のセンター長を務める酒井郁子教授に、これまでの取り組み、IPE^③の意義、今後の目標についてお聞きしました。

千葉大学大学院看護学研究科 教授
専門職連携教育研究センター (IPERC) センター長

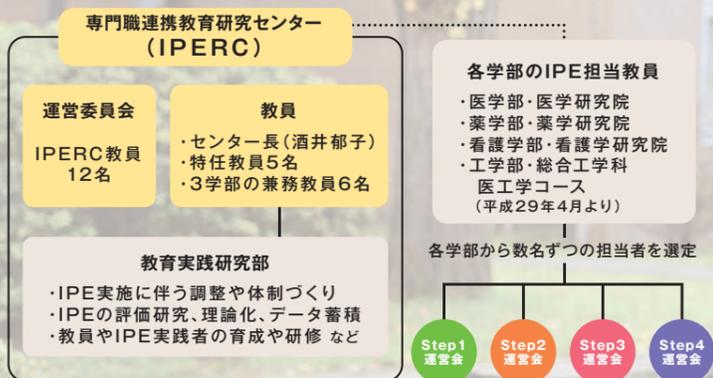
酒井郁子 (さかい・いくこ)

千葉大学看護学部卒。東京大学大学院医学研究科で博士課程修了。川崎市立看護短期大学の助教授を経て、2000年に看護実践研究指導センターの助教授として千葉大学に赴任2007年より教授。亥鼻IPEの立ち上げに関わり、現在は専門職連携教育研究センター (IPERC) のセンター長。

亥鼻IPEってなに？

患者・サービス利用者中心の医療の実現には、それぞれの医療専門職が連携するチーム医療が不可欠です。お互いの職種の弱みをフォローするだけでなく、他の職種の専門性を理解しお互いを高め合う連携の能力が必要となっています。千葉大学では欧米でいち早く取り組まれてきたIPEを2007年度から実施。亥鼻キャンパスにある医薬系の3つの学部の必修科目として導入した「亥鼻IPE」では、1年次から少人数のグループによる体験型の学習を行います。1年次からの4年間、3学部の学生がともに学ぶことで、相手の専門を理解しながら、自分の意見を主張し、そして患者にとって最善の解決策をチームとして導く力を養っていきます。

また、2015年には看護学研究科附属専門職連携教育研究センター (Interprofessional Education Research Center: IPERC=アイパーク) が開設され、亥鼻IPEで得た知見を活かしながら、IPE研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展を目指し活動しています。



当時の3つの学部の学部長が一致団結して亥鼻IPEのスタートをあと押しした

2007年に先進的な取り組みとしてスタートした亥鼻IPEですが、千葉大学がこの取り組みを始めた背景には何があるのでしょうか。

酒井 現在の日本では、医療や福祉に関わる大きな問題として超高齢社会があり、これに伴い、医療の高度化やチーム医療の必要性が高まっています。大学の医療系学部には、そうしたニーズに応えられる連携力を持った人材を育成することが求められています。患者・サービス利用者中心の医療の実現に向け、千葉大学でも医学・薬学・看護学の3学部の連携を重視した教育プログラムが必要だとの思いから、亥鼻IPEをスタートさせました。

IPEは日本でも珍しい先進的な立ち上げということでしたが、立ち上げまでの経緯はどのようなものだったのでしょうか。

酒井 2005年から2006年にかけて、私の千葉大学時代の先輩が埼玉県立大学でIPEの立ち上げを担当していたこともあって、話を聞いたたり、海外視察に同行させてもらったりするなかで、「これは本当に必要なんだな」と感じるようになりました。埼玉県立大学が海外から招いた教員に千葉大学で講演してもらったところ、当時の徳久剛史学部長を含む3学部長の意思決定により実現に向けて動き出しました。西千葉キャンパスにあった薬学部が亥鼻キャンパスに移ってきて医療系3学部が亥鼻に揃ったタイミングでもあり、連携教育をスタートする条件が整っていたというのも大きかったと思います。

IPEという考え方が3学部で定着し、チーム医療を担える人材育成に手応え

亥鼻IPEの仕組みについて簡単に教えてください。

酒井 亥鼻IPEは、医薬系の3学部で必修科目となっています。1年次から4年次まで、4つのステップのカリキュラムがあり、グループワークや演習を通じて、チーム医療に対応できる人材育成を行っています。ステップが進むにつれて演習はより実践的になり、Step4では医薬系の各学部のメンバーが協力して模擬患者の退院計画を立案します。

10年間の歩みを見てきて、どのような成果があったとお考えでしょうか。

酒井 チーム医療というのは、お互いに知らない同士でもすぐにチームとして動けることが肝要です。亥鼻IPEではこれが標準でできるようになることを目標としてきましたが、学生の臨床実習などを見ていると、かなりうまくいっているという手応えがあります。また、IPEという考え方が3学部で周知され、学生だけでなく、各学部の教員や職員にまで浸透しているのは、10年間の大きな成果だと感じています。

IPE^④の開設で、研究や教育実践など、拠点としての可能性が大きく広がった

2015年に専門職連携学習研究センター (IPERC) が開設しました。この意義はどのようなものだとお考えですか。

酒井 亥鼻IPEのアイコンといえると思います。センター化自体は亥鼻IPEがスタートした当初から考えていましたが、地道に続けてきたことで一定の実績もでき、学内でも十分に定着したタイミングということで、ようやくIPE^⑤開設の運びとなりました。専門の常駐職員を置くことで業務を集約できましたし、亥鼻IPEで得た知見を研究したり、これからの教育実践に活かすなど、窓口・活動拠点としての可能性が大きく広がったと思います。

最後に、亥鼻IPEの今後のビジョンと学生へのメッセージをお願いします。

酒井 IPE自体は国内の大学でも取り組みが進んできていますが、医薬系の3学部に加えて2017年度からは新たに工学部も加わり、亥鼻IPEはますます複合的な展開になりつつあります。ここで培った先進的なノウハウは、医療だけでなく高等教育にも広く活かせると思います。また、今後は国内だけでなく、これから医療の高度化が進むASEAN諸国などにも貢献できるのではないかと期待しています。医療人というのは、知識や技術ももちろん必要ですが、それ以上に重要なのが人間性です。学生の皆さんには、IPEを通じて連携やコミュニケーションを学び、優れた医療人として活躍してくれることを期待しています。IPERCはとてもオープンなセンターなので、気軽に立ち寄ってください。

【学生の声】

Step1から4まで4年間、IPEを受講してきていかがでしたか？ Step4で同じグループになった皆さんにお話を伺いました。

●学部での実習経験をチームで実践



看護学部 河手 桃子さん

学部で退院指導の実習をしたことがあり、今回の退院計画づくりではその経験を活かすことができました。もともと人見知りですが、協力しながら問題を解決していくことを通して、コミュニケーション力もついたと思います。チーム医療のなかで自分が果たすべき役割を実感できた点が有意義でした。

●チーム医療を機能させられる医療人に



医学部 磯部 琴絵さん

個人的には、専門職のコンサルテーションで臨床心理士の方と話せたことが印象深いです。医師だけではわからないことも、チーム医療がきちんと機能することでより良い診断や対応ができることを実感できたからです。この経験を活かして、周囲の人と協力し合えるような医療人になっていきたいと思っています。

●患者さんとの接し方の重要性を実感



医学部 池間 俊輔さん

チームづくりを進めるなかで、薬学や看護について知ることが、自分の役割をより深く理解することにつながると感じました。また、知識や経験だけでなく、患者さんとの接し方や言葉づかいなども含め、4年間の亥鼻IPEで「患者中心の医療」という認識がしっかり植えつけられたと実感しています。

●各学部の視点の違いを実感できたことが収穫



看護学部 橋本 奈津美さん

4年間の亥鼻IPEを通して、それぞれの学部が学んでいることの違いが理解できました。それぞれの専門性や職種によって患者のどこを見るか、視点の違いを知ることができたのが収穫です。今後はコミュニケーション力をもっと磨いて、これからの看護の仕事に活かしていきたいと思っています。

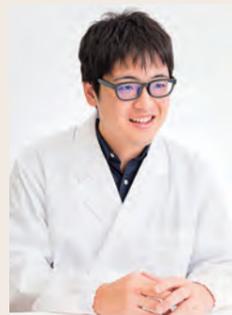
●チーム医療のなかでの自分の役割が明確に



医学部 古城 正偉さん

Stepが進むごとに専門性が高まり実践的な学習ができたことが良かったです。私は医師志望ですが、医師だけでできることには限りがあることを知れたのは大きな体験になりました。この4年間の経験を活かし、チーム医療という枠組みのなかで、自分の役割を果たせる医師になりたいと思っています。

●チーム医療の具体的なイメージを実感



医学部 藤崎 敬太さん

初めて薬学部や看護学部の人と一緒に模擬面接をでき、どうやって意見をまとめるか、どの部分を頼ればいいのかなど、チーム医療の具体的なイメージをすることができました。座学だけではわからないことも、4年間の実践的な実習を通じて理解を深めることができたことと実感できています。

●話し合いで意見をまとめるプロセスを経験



薬学部 高田 真子さん

このチームで薬学部はひとりだったので専門性が活かされたと思います。グループワークでは、学部ごとに意見が異なることもありましたが、しっかり話し合うことで最良の落としどころを見つけるという体験もできました。専門家のコンサルテーションもとても参考になり、コミュニケーションの大切さを実感しています。

亥鼻IPE 授業レポート

Step1からStep4までの4つのStepで構成される亥鼻IPE。2017年9月に実施されたStep4の集中プログラム最終日の様子をレポートするとともに、受講した学生の生の声を聞いてみました。

亥鼻IPEのStep構成図



「解決」全2日

「患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力」を身につける。対立や葛藤の解消、課題解決に向けたプロセスの整理など。

「共有」全8回

「専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力」を身につける。患者やサービス利用者との触れ合い、コミュニケーション・ワークショップなど。

「統合」全3日

「患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力」を身につける。模擬患者との面談や専門職のコンサルテーションを通じた退院計画の立案。

「創造」全7回

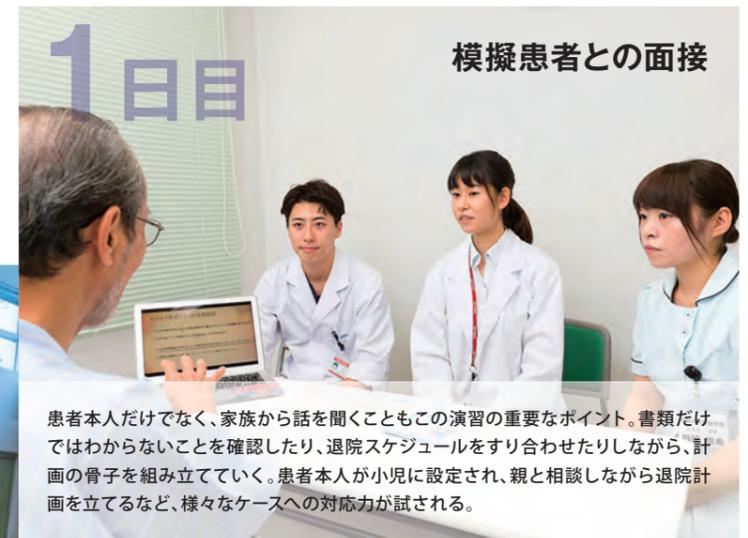
「チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力」を身につける。保健・医療・福祉現場での見学実習、グループワークなど。

亥鼻IPEのStep4は、模擬患者に対して面接を行い、退院計画の立案を行う3日間の集中プログラムです。学生は医薬看の3学部から1~4名ずつ、合計6~7名程度のチームとなり、脳こうそく、HIV、糖尿病、大腸がんなど、割り振られた症例の模擬患者の退院計画を作成します。



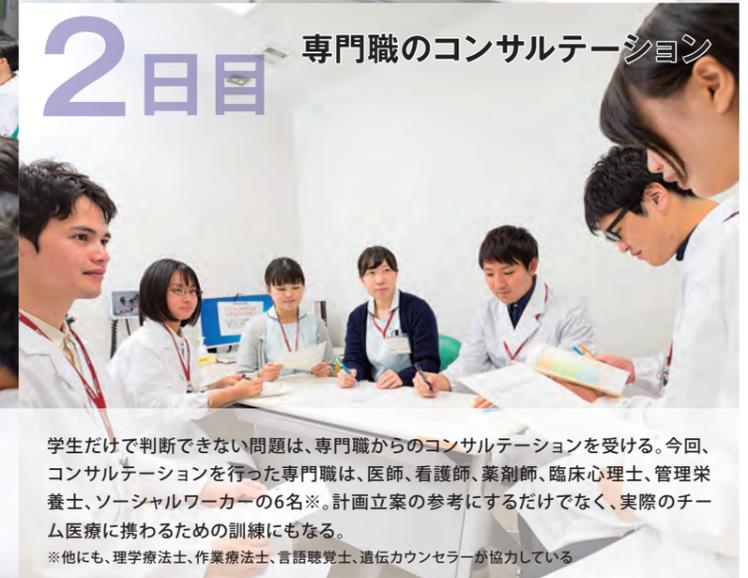
退院計画をまとめ発表

面接とコンサルテーションをもとにグループワークを行い、退院計画をまとめる。立案した計画は、他チームの学生や教員、模擬患者の前で発表。その際、他チームからの質疑もあり、足りなかった点や今後の課題についても討議する。



模擬患者との面接

患者本人だけでなく、家族から話を聞くこともこの演習の重要なポイント。書類だけではわからないことを確認したり、退院スケジュールをすり合わせたりしながら、計画の骨子を組み立てていく。患者本人が小児に設定され、親と相談しながら退院計画を立てるなど、様々なケースへの対応力が試される。



専門職のコンサルテーション

学生だけで判断できない問題は、専門職からのコンサルテーションを受ける。今回、コンサルテーションを行った専門職は、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、ソーシャルワーカーの6名※。計画立案の参考にするだけでなく、実際のチーム医療に携わるための訓練にもなる。
※他にも、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、遺伝カウンセラーが協力している



亥鼻キャンパス

医療系コンテンツや豪華なゲストで注目を集めた「亥鼻祭」



亥鼻祭実行委員会
海堂尊先生講演会・販売サイン会



千葉大学医学部の大先輩であり、現在も作家であり医師である海堂尊先生の講演会を企画運営しました。講演は学生時代の話から最新作シリーズの話まで及び、AIの話やゲバラの話など、専門的な内容もありましたがとてもわかりやすく、興味を持って楽しく聞くことができる素晴らしいご講演でした。販売サイン会で用意していた40部がすぐに完売したのはうれしかったです。



医学部医学科 3年
あらい かずま
新居 和真さん

東洋医学研究会
生薬の展示や東洋医学の解説



東洋医学研究会は漢方や中医学、鍼灸など東洋医学について幅広く学ぶサークルです。部員は医学部と薬学部が主ですが、今年は幅広い学部が集まっています。ただ生薬を展示するだけにせず、来てくれた方とできるだけお話をすることを心掛けました。印象的だったのは薬剤師や鍼灸師の先生が多く来てくださったことです。先生方には逆に多くのことを教えていただいて勉強になりました。



医学部医学科 3年
すずき たかし
鈴木 隆さん

大学祭 レポート 2017

11月は大学祭のシーズン！今年も多くの方にご来場いただきました。各キャンパスの催しの一部を紹介します！



西千葉キャンパス

4日間にわたって行われた県下最大規模の大学祭「千葉大祭」



サイエンスプロムナード
特別展示 恐竜トークショー



私たち学生学芸員は、サイエンスプロムナードで展示の解説や管理を行う、科学や博物館が好きな学生有志の団体です。大学祭では学芸員が自ら企画した特別展示を毎年公開しています。恐竜トークショーでは、恐竜以外の科学にも興味・関心を広げてもらえるような内容を意識し、今生きている動物の体や道具の構造と関連づけて、恐竜の体の構造が「なぜそうなっているのか？」を説明しました。



工学研究科
共生応用化学専攻
修士2年
とよだ はじめ
豊田 一さん

千葉大学 CRS (Chiba Robot Studio)
ちばロボ2017～ようこそピンポンパークへ～



千葉大学CRSはロボットづくりをテーマとしてもづくりに興味がある人が集まるサークルです。ちばロボ2017における理念は、「子どもたちに楽しんでもらうこと」。そのために、わかりやすいルール設定、見やすいステージ配置を毎年考えています。競技後の操縦体験会で、多くの子どもたちが私たちの作ったロボットを操縦しながら楽しんでいる様子を見ることができて、頑張った甲斐があったと思います。



工学部機械工学科 3年
さわだ こうき
澤田 航輝さん

法律研究会 葉法会
模擬裁判



葉法会は「会員相互の協力による、会員の法的素養および法的能力の向上」という目的のもと集まった、44年の歴史を持つ法政経学部公認の団体です。今年の模擬裁判は「安楽死」をテーマに掲げ、当会の顧問である、林 陽一教授の協力のもと台本を作成しました。千葉地方裁判所にもご協力いただき、当日3名の裁判官は法服を着て演じるなど、来場者には本格的な裁判の雰囲気味わってもらおう工夫しています。



法政経学部法政経学科
(法学コース) 2年
あじま なおき
味水 直也さん



松戸キャンパス

園芸学部の良さがつまった松戸ならではの「戸定祭」

戸定祭実行委員会
フランス庭園カフェ



戸定歴史館の方から、戸定邸の主・徳川昭武が参加したパリ万国博覧会の150周年にちなんでフランス式庭園でイベントができないかと声がかかり、カフェを開くことに決めました。これまで戸定祭でやったことのない企画だった中、多くの人に助けをいただいで開催できました。メニューは柏の葉キャンパスでとれたはちみつを使用したドーナツや、千葉大学の先生がパッケージデザインをしたパナマ産コーヒーと、すべて千葉大学に関わりのある商品です。



園芸学部園芸学科 4年
ふじた なほこ
福田 菜穂子さん



柏の葉キャンパス

見て食べて学べる！
地域に開かれた「センター祭」



環境健康フィールド科学センターが毎年開催するセンター祭。今年は地域のイベント「秋のとれたてフェスタ」とコラボしました。野菜、果物、花苗、花木の販売、センター内お散歩ツアー、看護学部舞部の演舞、そして様々な模擬店が出展し、盛大なイベントとなりました。



木場 弘子 (きは・ひろこ)
千葉大学教育学部卒業。1987年にアナウンサーとしてTBSに入社し、同局初の女性スポーツキャスターとして活躍。1992年、プロ野球選手・与田剛氏との結婚を機にフリーに。2001年以降、千葉大学教育学部で非常勤講師、特命教授を経て、2013年より客員教授。7省庁で20を超える審議会のメンバーも務めるなど、妻・母・キャスターの三役をこなしながら多方面で活躍。

TBS初の女性スポーツキャスターとして注目され、その後、フリーアナウンサー、大学教授、各省庁の審議会メンバーなど様々な場で幅広い活躍を続ける木場弘子さん。現在の仕事や千葉大学時代の思い出について話を伺いました。

とにかくまずはやってみる。
そんな姿勢で挑戦を続け
自分の可能性を広げていきたい

フリーキャスター 千葉大学客員教授

木場 弘子 さん

アナウンサーになりたいと思ったのはテレビ局が主催する講習会がきっかけ

木場さんは、千葉大学を卒業してアナウンサーの道へと進んだ先駆者だったとお聞きしています。なぜアナウンサーになりたいと思ったのでしょうか。

木場 もともとアナウンサー志望ではなく、テレビ局のプロデューサーが教職を考えていました。転校の多い家庭に育ち、小学校のときにノルウエーで過ごした時期があるのですが、帰国したら流行についていけず、周囲に打ち解けられなかったんですね。そのときの情報源がテレビだったこともあって、番組制作のようなことがやりたいと思ったんです。大学進学の際に教育学部を選んだのも、教職だけでなくマスコミを目指す学部だと思ったからです。

番組制作を志望していた木場さんがアナウンサーを意識したのはいつだったのでしょうか。

木場 就活をしていたときに、どうすればテレビ局に入れるんだろうと、思っただけで就職に行ったら、たまたまテレビ局主催のアナウンサー講習のハガキを見つけて、糸口にでもなればと思っただけで参加してみました。現役のアナウンサーさんが仕事の内容や話し方などを教えてくれるのですが、その内容がとても面白いと思いました。私は転校が多かったこともあって、人とのコミュニケーションについても関心を持っていたので、人に話を聞いたり伝えたりする仕事は天職だと感じました。

審議会がやりがいを感じたのは自分の提言が採用され改善につながったこと

TBS入社後、恐らく民放では初めての女性スポーツキャスターとして注目されましたが、初めてという点で苦労されたことはありますか。

木場 戸惑いはありましたが、私は何事も「運と縁とタイミング」が大事だと思うのです。まずはやってみようと思えました。相談できる人がいないのは大変でしたし、男社会に女が入っていくことによる風当たりもありましたが、可能性は広がったと思います。結婚を機にフリーになってからも、話をいただいたら何でもやってみようという姿勢で仕事をしています。

キャスターとしてだけでなく、千葉大学では教授として教壇に立ち、各省庁の審議会や分科会などにも参画されていますが、どのような経緯で活躍の場が広がったのでしょうか。

木場 千葉大学から教壇に立つてみないかと誘いがあり、私はもともと教員になりたいという思いもあったので、ありがたうお受けさせていただきました。審議会で印象に残っているエピソードはありますか。

木場 航空関連の分科会に出たときの話ですが、以前、ある航空会社の搭乗ターミナルがわかりにくくて乗り遅れそうになったことがあったんですね。空港の搭乗ターミナルが分かれているのは仕方ないとしても、迷わない工夫が必要だと提言したら、チケット予約の際にターミナル確認ができるように改善されたんです。こういった改善によってユーザーの皆さんのお役に立てることにやりがいを感じます。

自分の「売り」を言葉にできるようにすると就活時や社会に出てから武器になる

学生時代はどのように過ごされましたか。

木場 いちばん覚えてるのは、教職課程が大変だったことです。とくに音楽と体育。私は手が小さいのでピアノも苦労しましたし、鉄棒の空中逆上がりや水泳のパタフライも必死で練習しました。私の場合は、新しいことや困難なことでも、まずは挑戦してみます。できなかったとしても、頑張ったプロセスは自分に残ると考えます。相田みつをさんの詩で大好きなのが「とにかく具体的に動いてごらん 具体的に動けば 具体的な答えが出るから」(※)です。幅広く何でもやってみようとする私の基礎は、もしかしたら千葉大学で小学校教員を目指していたからかもしれませんね笑。

最後に、千葉大生へのメッセージをお願いします。

木場 千葉大生はせっかく能力が高いのに、謙虚でアビールし切れずもったいないな、と感じています。自分を客観的に評価し、自分の「売り」が何かを言葉で表現できるようにしておけば、今後の就職活動をはじめ、社会に出てからも必ず生きてきますよ！

※相田みつを「にげんだもの」(文化出版局)



2017年、予防医学指導士の資格を取得。子どものころ、朝礼で倒れるほど体が弱かったという木場さんにとって、良い仕事をするために健康は大きなテーマ。高齢化社会を迎えた日本にとって、予防医学の社会的ニーズは高く、仕事の幅を広げるためにも挑戦したと木場さん

医学部のロゴマークは、何をデザインしたものか？

もっと
知りたい
千葉大学



begin.continue
千葉大学大学院医学研究院・医学部

医学部は1874年設立の千葉町共立病院をルーツとし、140年以上の歴史を持ちます。明治大正期に活躍した三輪徳寛教授(外科)は「獅子のように細心で大胆な肝力、鷹のような全体を見通し判断する眼力、女性の手のように柔らかな「手技」を意味する「獅胆鷹目行以女手」の格言を、医学部に伝え続けてきました。その伝統を引き継ごうとする意図から、2011年に新たなマークが作られました。

(国際教養学部見城悌治)

「うらやすこども大学」今年度は昆虫の不思議

INFORMATION



インセクト・ハウスを作成する小学生

浦安市の開催する「うらやすこども大学」で、大学院園芸学研究所の野村昌史准教授が講師を担当しました。今年度は「昆虫の不思議」その生き残り戦略の秘密に迫る」をテーマに講義と実習を行い、小学4、5年生37名が参加しました。昆虫クイズや昆虫の越冬を観察する「インセクトハウス」の作成など、終始盛況に進められました。

ヨット部全国大会へ2年連続出場

AWARD



大会は福井県高浜で行われました

2017年11月25日、ヨット部が全日本学生ヨット選手権大会に出場しました。昨年、昭和50年代以来の全国大会出場を決め、今年で2年連続の出場。本学では470級で昨年の16位を上回り14位、国立大では出場9校中3位に入りました。ヨット部ではOBとの連携も盛んで、SNEEDS基金を通じて部活の資金援助が行われています。

グッドデザイン賞受賞「EDIBLE WAY 食べられる道」

AWARD



松戸駅から千葉大学松戸キャンパスへ続く道で展開されています

園芸学研究所 木下勇教授の地域計画学研究室のグループが地域住民と行っている「エディブル・ウェイ 食べられる道」プロジェクトで2017年度のグッドデザイン賞(地域・コミュニティづくり/社会貢献活動(分野))を受賞しました。食べられる景観がまちの緑化・食育・コミュニケーションなど多面的な価値を生み出す可能性が評価され、受賞につながりました。

「はたらく。」を楽しめる会社に！株式会社協同工芸社 小須田誠さん

OBOG MESSAGE

入社2年目で成し遂げたこと
私は現在営業部に所属しています。お客様の看板取付要望を伺ったり、自社における看板製作や施工現場段取り、新規営業も行っています。営業先は自由度が高いです。入社2年目に、千葉を代表する施設のひとつであるマリンスタージムの改称に関わる看板取付の話聞き、思い切って営業してみました。怖いもの知らずだからこそできた営業かもしれません。それをきっかけに、社長直々にフオロイいただいた、受注することができました。多くの来場者の方が写真を撮って帰られる。そんな看板の仕事を獲得できたことは、誇りに思っています。

千葉大学の思い出
文学部国際言語文化学科に入學し、主に英語の文章構造を学びました。大学時代の思い出といえば、友人と毎日のように飲みに行ったり、旅行系部活のことが挙げられます。西千葉にあるいろいろな居酒屋に行ったり、語り明かしましたね。旅行系部活「キャンピングツアー」では、週末に田舎に出かけたり、川下りや無人島に行つて過ごした経験が忘れられません。千葉大学には様々な地方から来た方や多種多様な趣味志向の方がいます。在学生の皆さんにはぜひいろいろな人とつながりを持って視野を広げて欲しいですね。それと…授業はちゃんと出た方がいい！私は単位取得の面で痛い目に合いました。(笑)



▲ESDフォーラムをはじめ、共同研究・キャリアデザイン授業への参加など、千葉大学と多くの関わりを持っています



▲マリンスタージムの正面サインを受注した小須田誠さん(2016年卒)



▲現在10名の千葉大学OB・OGが、営業・企画・製造・総務の各ポジションに在籍しています

株式会社協同工芸社
http://www.kyodokogei.co.jp/

株式会社協同工芸社は、創業1969年以来、看板一筋で事業をしてきました。「お店を出したら看板」という日本の文化の1つである看板づくりを通じて、地域・お店・企業に貢献しています。1つ1つの看板づくりの積み重ねにより、「みんなが知っているアノお店や会社の看板を作っている会社」と言えるようになりました。創業50年近くの歴史を持ちながら、平均年齢31歳と若く「これから」を重視する会社です。

千葉大生に期待すること

私たちは協同工芸社でなければ体験できないことを実現したいと思っています。自分のやりたいことだけができる会社にするのは難しくても、20%でも10%でもそれを可能にして、「はたらく。」を楽しめる会社にすることを目指しています。この度それを実現し、評価し、報酬を得られる「アイデア提案制度」を開始し、実施する環境ができました。千葉大学で育んだ「自分らしさ」「没頭できること」「自分の好きさ」「私たちのこれから」で発揮し、「はたらく。」を楽しんでいただくことを期待しています。

千葉大産はちみつ利用のスイーツが人気

INFORMATION



季節ごとに咲く花が違うため、色や風味も様々です

本学で作った純粋はちみつを使ったコラボレーション商品が続けて登場、人気を博しています。2017年6月には創作洋菓子モンペリエが「はちみつドーナツ」を、10月にはなごみの米屋が数量限定商品「朝焼きどら焼き」を販売しました。千葉大学産はちみつは、柏の葉キャンパスの環境健康ファイルド科学センター内で採蜜され、糖度は80%以上。近隣住民の方を中心に好評を得ています。

2040年の各地域の姿を描く「未来カルテ」配布開始

INNOVATION



2040年の産業構造や、教育、医療等の状況などの推移を掲載。http://opossum.jpn.org/

社会科学研究院の倉阪教授らは、全市町村に対応した「未来カルテ」発行プログラムを無料ダウンロードを開始しました。各種統計データなどを用いて2040年の全国各地域の状況を予測した結果を見ることができ、現在の人口減少・高齢化傾向が継続した場合のインパクトを実感することが出来ます。ダウンロードは誰でも可能。地域の課題発見に役立ててみてはいかがでしょうか。

チェコからパラバドミントン選手来学

GLOBAL



普通教育科目のバドミントンの授業に参加しました

2017年10月2日、チェコから13歳のパラバドミントン選手2名とその家族や指導者が来学しました。これは、日本政府のスポーツを通じて国際貢献策「スポーツ・フォー・トゥモロー」の一環として外務省がスポーツ指導者・選手等を招いたものです。今回の交流にあたり、バドミントン部の学生が中心となってキャンパス内の見学や授業参加などの準備・当日の案内にあたりました。

難民問題啓発へ上映会を開催

GLOBAL



上映作品は「シリアに生まれて」。学内外から多くの方が集まりました

千葉大学は難民問題の教育啓発活動に取り組む学校として「国連UNCHR難民映画祭」学校パートナーズに認定され、初の上映会を2017年11月に行いました。本企画は普通教育科目グローバルボランティアの一環で、難民支援ボランティアの学生たちによる難民問題へのアクションとして実現しました。上映の前後には東京外国語大学非常勤講師山本薫先生の解説も入り、貴重な機会となりました。



I N D E X

- 02 特集 亥鼻IPE 10周年を迎えて
～「患者・サービス利用者中心の医療」を目指して
「自律した医療組織人」を養成する～
医薬系の3学部の学生がともに学ぶ「亥鼻IPE」。
今年10周年を迎え、あらためて振り返ってみます。
- 06 特集 大学祭 2017レポート
個性豊かな4キャンパスの大学祭を紹介。
- 08 特集 千葉大学 OBOGインタビュー
民放初の女性スポーツキャスターとして活躍し、
現在は、千葉大学の客員教授も務めるOGが登場。
- 10 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

〔表紙〕亥鼻IPE演習課題発表(亥鼻地区・クリニカルスキルズセンターにて)